

令和8（2026）年度 病害虫発生予察注意報 第3号

令和8（2026）年7月15日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

作物名 水稻

病害虫名 イネカメムシ

- 1 発生予想 発生量 多い
- 2 発生地域 県中部及び南部
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 県内32か所で実施した水稻における斑点米カメムシ類すくい取り調査の結果、イネカメムシの発生は平年より多かった（発生ほ場率：平年比495%、頭数：平年比400%）（表1）。特に、県中南部で平年より多く発生が確認された。
- (2) 県内42か所で実施した雑草における斑点米カメムシ類すくい取り調査の結果、イネカメムシの発生は平年より多かった（発生ほ場率：平年比225%、頭数：平年比152%）（表2）。特に、県中部で平年より多く発生が確認された。
- (3) 気象庁の1か月予報（7月9日発表）によると、向こう1か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並となる見込みであるため、斑点米カメムシ類の活動や増殖に適した気象条件が継続すると考えられる。

表1 イネカメムシのすくい取り調査結果
【水稻】地点数：32

発生ほ場率（%）	本年値※1	平年値※2	平年比（%）※3
県全域	9.4	1.9	495
北部	0	0	-
中部	9.1	0	-
南部	25.0	7.5	333
頭数	本年値※1	平年値※2	平年比（%）※3
県全域	0.40	0.10	400
北部	0	0	-
中部	0.27	0	-
南部	1.13	0.28	402

【雑草】地点数：42

発生ほ場率（%）	本年値※1	平年値※2	平年比（%）※3
県全域	11.9	5.3	225
北部	0	1.7	0
中部	11.1	2.2	505
南部	25.0	21.7	115
頭数	本年値※1	平年値※2	平年比（%）※3
県全域	0.20	0.13	152
北部	0	0.02	0
中部	0.17	0.03	500
南部	0.42	0.46	91

※1 調査時期は7月7～10日
※2 平年値は5か年の平均値（平成28年～令和7年）
※3 平年比（%）＝本年値/平年値

4 防除対策

(1) 水稻の生育診断速報（7月10日）によると、早植コシヒカリ（5月5日移植）は7月25日に出穂期を迎えると予想されるため、適切な時期に防除する。

(2) 水稻では、出穂期～開花期頃にかけて本種に加害されると不稔による大幅な減収となり、また、その後も発生が多いと斑点米による品質低下につながる可能性がある。そのため、出穂期（不稔防止対策）及び出穂期の7～10日後（斑点米防止対策）の2回、薬剤防除を実施する。その後も発生が多い場合には、2回目の防除から7～10日後に追加防除する。

なお、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、RACコード（殺虫剤分類）の異なる薬剤をローテーションで使用する。

(3) 周辺より出穂が早い、または遅い品種・作型のほ場では、被害が集中しやすいため防除を徹底する。



写真 イネカメムシとその被害

5 蜜蜂被害軽減対策

(1) イネカメムシ等の斑点米カメムシ類に対する薬剤防除は、水田周辺のミツバチに影響を及ぼす可能性があるため、地域の養蜂家に薬剤防除日を事前に周知する等の積極的な対応を行う。

(2) ミツバチの活動が最も盛んな時間帯(午前8時～12時)を避け、可能な限り早朝又は夕方に農薬散布を行う。

(3) 詳細は、「[蜜蜂被害軽減対策の推進について（農林水産省）](#)」を参照。

○ お問い合わせ等

・農業総合研究センター環境技術指導部防除課（Tel 028-665-1244）までお問い合わせください。

・病虫害情報発表のお知らせは、[X「栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)」](#)、[農業総合研究センターHP \(https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html\)](#)でも御確認いただけます。

・[カメムシ防除作戦HP \(https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html\)](#)も御確認ください。



X「栃木県農政部」



農業総合研究センターHP



カメムシ防除作戦HP